

令和4年度		学校評価総括表			五條市立五條中学校			
学校教育目標		夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～ 自立・自律・自学 ～					総合評価	
運 営 方 針		・小中及び家庭との連携を軸とした学習活動の工夫から基礎・基本の定着を図り、主体的かつ対話的に学ぶ意欲・態度を高める授業の工夫をする。 ・自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成と、一人一人が「来てよかった、明日も行こう、行きたい」と言える生徒の育成に努める。 ・運動を通した体力の向上を図ると共に、健康で安全な生活習慣を確立し、心身共に、たくましい生徒の育成に努める。 ・あいさつ運動をはじめ、防災活動やボランティア活動などPTA及び自治会等地域組織との協働・参画を図る。 ・教職員の資質・能力の向上を図り、働き方改革を推進する。					B	
令和3年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標				
○言語活動の取組により、自分の考えをまとめたり、自分の言葉で発表できる生徒が増えてきている。 ○タブレットの活用により、授業保障や教職員の研修等、分かる授業への取組を進めることができた。 ○●昨年の取り組みから、小中連携の取組を検討を進める。 ●家庭学習の時間を増やす効果のある方法を自主学習ノートの取組を含めた検討を進める。 ●読解力および言語力の向上について、生徒全体の力の底上げを図りたい。 ●生徒会や委員会活動を通じて、生徒達の主体的な活動の企画が必要。		◎確かな学力の育成	○基礎学力の定着を目指した授業の工夫					
			○家庭学習の習慣化					
			○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫					
		◎豊かな心の育成	○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成					
			○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養					
		◎活力ある心身の育成	○運動を通した体力の向上					
			○健康・安全教育の充実					
		◎特色ある学校づくり	○小中で一貫した地域と連携したふるさと学習の取り組みの構築					
			○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち					
			○コミュニティスクールの推進					
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
◎ 確かな学力の育成	○基礎学力の定着を目指した授業の工夫。	・学習場面での「めあて」「振り返り」を大切にした言語活動の充実 ・ステップ学習、地域未来塾の開設による学習機会の確保 ・ICTを活用した分かる授業の実施 ・朝読書・図書館の活用による読書習慣の定着(貸出目標5冊)	B	B	・言語活動について地道な取り組みを続けているが、大きな効果が出るに至っていない ・ステップ学習・地域未来塾を開設し、基礎学力向上の機会を設けた。 ・ICTの授業での活用は進んできているが、個別の学習への利用頻度は低めである ・図書館の活用については貸出冊数が目標を下回った。 自主学習ノートや学習教材を使用した学習の機会を確保することができた。家庭学習の定着には課題あり。	・今後も引き続き、丁寧な「めあて」「振り返り」の機会を確保する ・個別学習へのICTの活用を推進する ・図書館の活用に向け取り組み方法を再度検討する。	・生徒のアンケート結果からも、先生方はわかりやすい授業になるよう工夫している様子がわかる。確認方法として、次回は生徒アンケートに「めあて」「ふり返り」について項目を設定し、生徒に問うことも有効と思う。	
	○家庭学習の習慣化	・自主学習ノートやワーク・宿題等の活用による家庭学習の習慣化	B		・小中合同による研究部会の設置し、家庭学習の手引きの作成および合同による授業研究を実施した。 ・中学校からの出前授業、小学校からの授業支援を実施した。	家庭学習の定着には、生徒への啓発や、関心を深める教材の工夫が必要	・児童・生徒アンケートから家庭学習の時間が不十分であると思われるので、小中の共通の課題として取り組みを進める。	
	○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫。	・小中合同による授業研究等研修の実施 ・小中合同による研究部会の設置及び開催 ・教員の相互派遣による児童生徒への授業の実施	A		A			
◎ 豊かな心の育成	○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成。	・人権教育・道徳教育の充実に向けた研修の実施 ・生徒一人ひとりに寄り添う生徒指導の充実	B	B	挨拶運動の実施、担任及び学年による家庭訪問の実施できめ細かい指導を行うことができた。	今年度の取り組みを継続していく。生徒ひとりひとりに応じた取り組みの実践を全教師が行う。チーム五條中として組織的に行う生徒指導の実践を確立していく。	・生徒達の落ち着いた授業への取り組みや生活態度から、生徒指導や人権学習面等の先生方の日頃の取り組みの成果であると思う。今後も継続して取り組み進めていただきたい。	
		・インクルーシヴ教育の推進 ・個に応じた特別支援教育の充実 ・スクールカウンセラー等専門家と連携した生徒指導の推進	B		今年度はカウンセラーによる研修を行い、カウンセリングの大切さを実感することができた。またスクリーニング会議を行い、生徒指導にいかすことができた。 ・特別支援の授業やTTなどの支援を全教員で共通理解のもと行った。			
	○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養。	・体育大会や合唱コンクール等行事への取り組みを通した学級でのなかま作りの推進 ・生徒会中央委員会が主体となって実施する行事及び委員会活動の企画運営 ・生徒会各種委員会の活動の活性化	A		B	・合唱コンクールでは、パートリーダーを中心に授業や放課後に練習を行い、グランプリを獲得するために各クラスが一丸となって取り組むことができた。 生徒主体の行事および委員会活動の運営ができた。各委員会での取組が周知される場が十分ではなかった。	今年度同様、生徒が主体となって、生徒一人一人のよさが発揮できる委員会の運営を目指す。定期的な各種委員会の活動報告ができる場を設けていく。	・生徒会が教員の指示で動くのではなく、自主的に活動し生徒達を動かせるようになってきているのは良いことである。今後も生徒会活動の活性化を図ってほしい。
◎ 活力ある心身の育成	○運動を通した体力の向上	・部活動を通した体力づくりの推進	A	A	部活動を通して、人間性や社会生活上の規範の向上に繋がっている。	ガイドラインの定着を図る		
	○健康・安全教育の充実	・交通安全教室の開催等学習機会の充実 ・自転車通学生徒への安全指導 ・小中合同防災訓練の実施	A	A	・警察署等関係機関と連携した交通安全教室を実施することができた。 また、自転車通学生徒に対し常に注意喚起を行った。 ・中部学園としての防災訓練を実施した。	・健康と安全教育の充実の基礎には生徒達の規範意識の向上が欠かせない。学校だけでなく家庭と連携し、引き続き生活習慣定着を図る。 ・自分の命も他人の命も守れる行動ができるよう生徒達への働きかけを常に行うよう努める。	・部活動が来年度から地域移行となるが、生徒にとってよい方向に進むようにこれからもお願いしたい。 ・防災訓練については、小中で連携した行事として、小学生も一緒に参加出来るパートを増やせるよう検討をすすめたい。	
		・基本的生活習慣の定着 ・健康管理についての正しい理解と実践 ・食育の推進	A		・ほとんどの生徒に基本的生活習慣が定着し、健康管理についてもコロナ対応も含め理解と実践が結びついている。 ・生活の中で食事が果たす役割や健康との関りを理解しながら、偏食についても改善の努力をしている。			
◎ 特色ある学校づくり	○小中で連携したふるさと学習の取り組みの構築。	「ふるさと学習交流会」等児童生徒間の交流の機会の設定 ・「ふるさと学習」の系統化	A	A	ICTも活用しながら、実際に対面で小学校との交流会を開催することができた。学習の系統化については話し合いをすすめたい。	密になることを避けるためリモートも利用したが、やはり対面での発表の方が交流が深まるように感じる。開催方法については小学校と共に検討を進める。	・今年度、小学生が本校に来校しての体験入学を開催することができた。またその中で、ふるさと学習交流会をもリモートも使いハイブリッドな形で実施した。小学生から見て中学生はあこがれの存在であり、今回の実際に会ったことで中学校への期待が大きくなった。今後も中部学園として子ども同士が実際に会って一緒に活動する機会を確保していく。 ・中部学園としての運営協議会を設定し、学園の取り組みについて熟議を進める。	
	○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち。	・小中合同あいさつ運動等児童生徒会の交流の機会の確保	A	A	挨拶運動や防災訓練、体験入学会での交流ができた。	今回の体験入学で生徒会のメンバーが小学生に学校の紹介を行った。その姿を見て、中学校の生活が楽しみになったり生徒会に入りたいと感じた児童がいたことに手応えを感じた。児童生徒同士、良い刺激になるような交流の機会にしたい。		
		・新入学生徒への「体験入学」の実施等、中1ギャップを軽減する取組及び情報発信の実施	A		今年度は小学生が中学校に来て体験する機会を設けることができた。今回初めての試みだったので、次年度以降の方向性を考えたい。			
	○コミュニティスクールの推進	・五條中部学園としての学校運営協議会の設置 ・パートナーシップ事業の活用による地域ボランティアの活動の充実 ・PTA活動の活性化及び地域連携の推進	B	B	・各校の委員の選出をすすめ、来年度より学園としての運営協議会を設置する。 ・数学塾・大学生ボランティアの活動の継続とふるさと学習での連携を進めることができた。 ・コロナ禍の影響もあり、PTA及び地域連携については推進が出来ていない。	・中部学園としての運営協議会の設置および運営を進めてゆく ・事業の継続のためボランティアの募集範囲を広げる ・コロナの5類化も考慮し、コロナ禍前のPTA活動を見直しながら活性化に努める		
今年度の成果と次年度への課題		[成果]・基礎学力の定着を目指した取組として、わかりやすい授業を実施することができた。 ・生徒指導・人権教育・特別支援教育についての取り組みが、生徒達の落ち着いた生活態度につながっている。 ・新型コロナウイルスの影響が弱まり中部学園として児童生徒の交流の機会が増え、互いに良い影響を与えている。			[課題]・授業の工夫等は進めているが、現在のところ結果につながっているとはいえない。家庭学習の習慣化も含め中部学園として連携しながら学力向上の取り組みを進める。 ・中部学園として児童・生徒会の交流を進めると共に生徒会活動の活性化を進める。 ・運営協議会を中部学園として統一することで、どのように熟議やパートナーシップ事業との連携を進めるか検討する。			